

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・今年度一番のメインである母の日が終わったが、インターネットでの注文が昨年に比べ増えており、昨年同様、店舗の売上よりインターネットの売上のほうがはるかに多い。ただしインターネットでの販売はそろそろ頭打ちで、当店でさばける限界量に達している。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・前年に比べ販売量は2割増えている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・これまで客の購買行動は消極的であったが、積極的な動きがみられはじめ、活気が感じられる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街では、来年の4月まで「日本におけるドイツ年」というイベントを行っており、やや客の動きが良くなっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・4、5月と前年に比べ売上高が伸びている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・衣料品全般で前年実績を越えそうである。一品単価も客単価も前年実績を上回るという状況にある。入店客数は通常であれば前年比96%前後であるが、同98%を超えており、3か月前に比べ全般的に改善している。家庭用品の売上が若干気になるが、先月に引き続き、やや良いという印象を受ける。
		スーパー（店長）	単価の動き	・ここ2、3か月売上が少し上向きである。この傾向がある程度は続くと思われる。昨年は総額表示導入により売上が前年より落ちていることを勘案すると、今年も少し割引をしなくてはならないと考えている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・今月は半年ぶりに特に紳士服、アウターウェア等の夏物を中心に衣料品の動きが非常に良かった。また、久しぶりに高額品のインポート商品が出ている。これらが今月の売上増にかなり貢献している。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・全体的にはやや良くなりつつあり、中でも高額品の薄型テレビが好調に推移している。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・平日のランチタイムの奥様方、老夫婦等の来客は増えているが、土日祝日の大家族の来客は減っている。
		通信会社（管理担当）	それ以外	・本年度はコンペ案件が豊富である。年度当初の受注量の立ち上がり早い。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・天候の影響もあるが、客足は伸びてきた。
		競馬場（職員）	来客数の動き	・売上の減はまだ止まらないが、入場人員はやや増の日は出てきている。
		設計事務所（所長）	販売量の動き	・個人住宅の設計業務が、以前に比べて少しずつ増えている。
変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・来街者は年配の女性の方が多く、若者がいない。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月、商店街の商圏内にスーパーがオープンし、周辺の大小スーパーが毎日のように売出をしているため、我々商店街には客があまり来ない。その上、駐車場がないため、近くのお年寄りや買忘れをした客しか来ず、売上が上がらない。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・中心商店街には、天候が良いにもかかわらず来街者が少ない。財布のひもも固い。	
	百貨店（営業担当）	単価の動き	・全店売出して入店客数、レジ客数、買上単価が共に低下している。プロパー商品の売上は前年を確保しているが、バーゲンの売上が減少している。また、催事場売上も今一歩である。	
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・以前に比べ企画の動員が厳しい。街場の動員方法については、商店街を巻き込むことも今後は検討している。	
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・福岡市天神地区は地下鉄七隈線開通及び新装開店した地下街の効果も一段落し、来客数も前年並みとなった。売上高もほぼ前年並みである。先月、先々月とあった地震の影響もほぼ無くなった。	

百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・3月20日の福岡県西方沖地震以降、心理的な面から来街者、来店者が徐々に減ってきていた。シニア層は当然であろうと考えられるが、若者までもが減ってきている。特に夕方以降の商業施設への来店者は目に見えて落ちている。地震による心理状況に加え、見通しの見えない不景気感が加わって消費が良くなる要素がみられない。特に高額品の動きが止まっている。
百貨店（業務担当）	販売量の動き	・総売上高が昨年を超えない。好転してきているとは言えない。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・今年はゴールデンウィークが天候に恵まれ、屋外の施設に遊びに行く客が多く、小売業のような屋内施設は厳しかった。
百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは天候に恵まれ、市外への流出が加速したことで、イベントを行ったものの、百貨店での入店客数数は減少傾向にある。5月中盤は気温が上がったことでUV関連等の夏物商品が好調に推移した。
スーパー（店長）	販売量の動き	・朝晩涼しいため、春物衣料が好調に推移している。しかし食料品、雑貨類については今一歩伸びがない。
スーパー（店長）	単価の動き	・薬局と酒を直営にし、魚コーナーをテナントから直営にし、やっと前年比2桁増であり、実質的には同84%である。依然として、衣料品を中心にここ2年間前年割れである。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・ゴールデンウィーク期間中の客数、客単価とも昨年を下回っている。天候が悪く、例年であれば弁当、おにぎり等の買上点数が増えるが、今年はそれが少なく、客単価も50円以上下がっている。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・先月くらいまで良かったが、ここに来て少し伸び悩んでいる。天候は良いが、客数があまり増えない。
コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・弁当とパンを販売しているが、弁当は量販店向けが前年比6.9%減、コンビニエンスストア向けが同5%減、ローカルスーパー向けが同24%増である。パンについては、量販店、コンビニエンスストア向けが前年比約12%減、ローカルスーパー向けは同8%増である。総合すると、量販店向けが前年比11.6%減、コンビニエンスストア向けが同4.4%減、ローカルスーパー向けが同11.3%増となっている。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・5月に入り、売上は前月に比べ微増してはいるが、依然景気は良くない。
衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・連休は天気の良い日が続いたので、行楽地へ行く客が多かったのか、大型ショッピングモールへの客は少なかった。連休が明けても天気が良すぎて、客足が伸びなかった。
衣料品専門店（総務担当）	単価の動き	・決算最終バーゲンを特設会場で行っているが、着物、宝石、高級婦人服、毛皮、バッグ等の高級品の売行が良い。4～5万から50～60万の価格帯が売れている。
乗用車販売店（管理担当）	お客様の様子	・イベント等の来場者は多いが、商談がなかなか成立しない。また中古車でも品物がいいものは高く売れるので、中古車に客の目がいつている。
自動車備品販売店（従業員）	単価の動き	・高額商品のカーナビゲーションの単価が、5万円ほど以前と比べて落ちてきた。
住関連専門店（経営者）	単価の動き	・来客数は少ないが、5月にしてはプライダル向け大物家具に動きがあった。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	販売量の動き	・燃料油については、5月が石油元売の仕入値がピーク高となり、小売価格転嫁を実施してきたが、昨年に比べ販売数量はさほど変化がない。
その他小売 [雑貨卸]（総務担当）	販売量の動き	・特に景気の良くなる要因が見当たらない。季節的にも梅雨、向暑の時期で期待できない。しかし、住宅リフォームの引き合いが少しずつ出ている。財布のひもは全開ではないが、少々緩んできている。
高級レストラン（専務）	来客数の動き	・今年に入り来客数が前年比5%ずつ落ちている。前年が良すぎたので、今年度はまた後戻りをしている。新幹線開業効果がなくなった。
その他飲食 [居酒屋]（店長）	お客様の様子	・連休が重なったので、客はその後のはずみで消費しない。

観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・宿泊・レストランとも予算・前年比ともに増加しているが、一般宴会が若干停滞気味である。	
都市型ホテル (総支配人)	販売量の動き	・ゴールデンウィークの宿泊が昨年より落ちた。福岡県西方沖地震の影響で敬遠された。	
都市型ホテル (スタッフ)	お客様の様子	・一般宴会の受注状況は、施行件数は漸増しているものの、件単価は伸び悩んでおり、景気が良くなっているとは判断できない。	
旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・愛知万博人気は相変わらずで、逆に北海道向け旅行が特に影響を受けている。	
旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・中国で起きた反日デモの関係で、中国向け旅行があまり振るわなかった。しかし、その分国内旅行に向かっており、客の動きは昨年とあまり変わらない。	
タクシー運転手	お客様の様子	・5月前半は悪かったが、後半になってショッピングセンターがオープンし、人の動きが良くなったことで周りが活気づいている。	
タクシー会社 (営業担当)	お客様の様子	・相変わらず人の動きが良くなっていない。	
通信会社(業務担当)	販売量の動き	・5月はキャンペーンの実施もなく、チラシ折込も1回のみだからか、携帯電話の販売台数がなかなか上がらない。特に平日の落ち込みがひどく、週末が頼りだが、大きな伸びはない。	
テーマパーク (職員)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間は、宿泊、ゴルフともに前年をやや上回っている。ただし、それ以降はやや前年を下回っている。	
設計事務所(代表取締役)	お客様の様子	・公共団体からの受注は、財源の縮小から手控えられている。民間からの受注は、利便性の高い立地のものやシニア層をターゲットとする等、購買層を絞った分譲住宅やマンションについては需要があるが、物件は限られている。このため、一定の需要はあるものの裾野の広がりはない。	
住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・ゴールデンウィークの展示場来場に期待したが、予想したよりも思わしくなかった。	
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・宮崎市内に大型ショッピングセンターがオープンし、中心商店街の人通りが減っている。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・来客数が減少している。また、店主からは売上が伸びないという声が多く聞かれる。
	一般小売店[青果](店長)	お客様の様子	・嗜好品である果物の売行が止まった。逆に進物である完熟マンゴー等、都会向けの商材はかなり上がっている。
	一般小売店[鮮魚](店員)	販売量の動き	・魚価が安いのに売れない。売れないから安いということもあるが、とにかく売れていない。
	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・母の日までは来店されるお客様も多く、ゴールデンウィーク期間中は気温も高く初夏物の動きも良かったのだが、それ以降は客数も減少し、客の購買に対する意欲も大きく減退した。
	百貨店(販売促進担当)	販売量の動き	・衣料品部門が前年を大幅に割っている。
	スーパー(店長)	お客様の様子	・客は、価格には反応するが、それ以外の要素には慎重である。
	スーパー(企画担当)	来客数の動き	・もともと近接しているドミナント店舗の自店競合に加え、4月にオープンしたディスカウントストアや中規模スーパーの影響が大きく、想定していた影響よりも徐々に回復傾向があるものの当該数店舗においては苦戦を強いられている。
	コンビニ(店長)	販売量の動き	・売上が伸びない。客数は変わらないが、客単価が落ちている。
	家電量販店(店員)	来客数の動き	・繁忙期でないということもあるが、近隣に大型商業施設ができた影響で、客の流れが一時的に変わっている。
	家電量販店(総務担当)	販売量の動き	・好調だった薄型テレビやデジタルカメラ等の単価が下落したにもかかわらず、販売量の伸びが鈍化している。
	乗用車販売店(販売担当)	販売量の動き	・ここ2か月位前から販売量が前年を下回るようになり、マーケットが沈んでいる。

		高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・今月は株主総会があったため、団体客は先月より入ってきたが、小口の4～5人という客の来店頻度が少なかった。1日の予約がその株主総会の団体のみという日が今月は結構多かった。
		高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・近所の店をみてもどこも暇である。料亭で使うような高級食材の値崩れも激しいようだ。
		高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・福岡県西方沖地震後、人が動いてよくなると思っていたが、いまだ余震が続き、あまり福岡に人が入ってきていないようである。
		都市型ホテル (副支配人)	お客様の様子	・福岡県西方沖地震以来、ビジネス以外の客の動きが悪い。さらに韓国問題、中国問題の影響から韓国、中国からの客が全く動かなくなった。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は前半に大型連休があったせいか、連休明けでも繁華街、商店街はほとんど人出がない。夜の繁華街では客よりタクシーやキャッチの方が多く目立つようであった。
		ゴルフ場(従業員)	単価の動き	・プレー料金が昨年より2割くらい安くなっている。客はゴルフ場を選ぶというより、料金を選んでおり、安いゴルフ場に流れている。また、客単価が2割落ち、売上が1割落ちているというのが現状であり、今月は苦戦した。
	悪く なっている	百貨店(営業担当)	競争相手の様子	・今月16日に大型商業施設がオープンした。店頭販売においては、商店街、大型店共に前年比3～4割減少している。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・競争店が立て続けに4店舗できたということで、客数が8%ほど落ち込んでいる。
		乗用車販売店 (従業員)	競争相手の様子	・他のディーラーとの値引き競争が今まで以上に激しくなっている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・大型商業施設が宮崎市にオープンしたため、客がほとんどそちらに行っている。街中は空洞状態になっており、3か月前に比べると非常に悪い。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	農林水産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・高卵価の影響で原料調達が少し厳しくなっている。工場の稼働に影響が出ているが、加工品の販売状況は総じて好調である。特に居酒屋関連が順調に伸びている。加工メーカーからの引き合いもかなり出ている。
		家具製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・今月の受注額は、例年であればゴールデンウィークの影響もあり営業日が少ない分、減少する月なのだが、前年比125%であった。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・引き合い案件は確かに前回回答時よりも多くなり、景気は上向きになりつつある。
		金融業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・企業の受注の量、売上に関しては、昨年、一昨年に比べ回復傾向にある。
		その他サービス業[物リース](役員)	取引先の様子	・取引先との会話の中で、ボーナスの支給見込みが昨年より増えそうだとか、3月末の決算が若干上向きと答える企業が多くなってきている。
	変わらない	電気機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・電子部品関連は、大手各社共に動きがばらばらで非常に不安定な状態である。半導体関連では、特にリードフレーム関連において、状況が悪い中でも仕事量は確保できているが、まだまだ不透明である。
		金融業(調査担当)	取引先の様子	・福岡都市圏の貸出の年率が、3年3か月ぶりに極めてわずかであるがプラスに転じた。また、企業の短期の運転資金の減少率が、マイナス10%以上だったものがマイナス5.7%に改善したことが要因である。大底は打ったようだが、景気回復と言うには弱い数字である。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・関係先の売上の状況であるが、数字として飲食関係、タクシー業等はとりあえず前年を上回っているが、1～3月と比べると伸びが落ちており、5月末にかけて少し低下しているという話を聞いた。
		経営コンサルタント	受注価格や販売価格の動き	・コンサルティングの仕事そのものの量は変わらないが、受注単価が下がり気味である。
	やや悪く なっている	繊維工業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注が少なすぎる。忙しいときと暇なときの差が大きい。今は一番暇な時期になるので特に悪い時期である。それと原油高のために資材が高くなっている。

		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・通常の受注も以前より減っている。陶器市は、天候には恵まれたが売上は前年に比べ軒並み1～1.5割減少しているようである。客は多かったが、観光的な色彩が多くなってきて、ものを買うといったことが少ない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・客先からのコストダウン要請による原価低減に加え、材料価格、石油価格の高騰により、部品の価格が高騰している。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・身の回りの酒業販店が倒産した。元気の良い店だったが、消費者の購入量が減って、売上が上がらず、利益率もまわりの業販店との競争で、低価格で対応せざるを得なかったようだ。
	悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・30%のコストダウンが実施され、生産量が半分以下に落ちてしまい、大変な状況悪化を招いている。すぐ回復の兆しがない。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・福岡都市圏での求人件数は、前年を20%近く上回って推移している。中身をみると、アウトソーシング、コールセンターなどの求人が活発である。アウトソーシングの求人はメーカー系や倉庫内作業の請負が中心であることから、物が動いている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比10%前後の伸びで堅調に推移している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・営業の業種、業務を中心に紹介予定のオーダーが多く目立ってきている。直接雇用の動きが感じられるが、回復するまでには至っていない。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・パート、臨時、請負求人の増加傾向が依然として続いている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・10人以上の大量求人の割合は、全体の求人の約40%と前年とほとんど変わらない伸びを示している。中身についても、以前と同様に請負求人を中心とした求人が活発である。
		民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・自動車、半導体、電気機器等の好調業種や、企業統合・合併等を控えた金融機関で派遣需要が比較のおう盛である。ただしユーザーの高品質・低価格に対する要望は高いものがある。
	やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	